

～埋蔵文化財発掘ミュージアム～

→ 砂の上で見つけた前方後円墳？

西区姪浜

姪浜遺跡



掘り下げている黒い部分が
古墳周溝とみられる。

姪浜遺跡の第6次調査で、
古墳時代の埴輪が発見されました。

博多湾に面する砂丘上に営ま
れた姪浜遺跡では、これまでに弥
生時代の甕棺墓などが見つかって
います。今回の発掘調査は昨年

4月～7月に実施し、今年は
報告書をまとめるために整理作

業を行っています。その結果、弥生時代と考え
ていた溝の出土品に埴輪が含まれていることが分
かり、この溝が古墳の周溝であった可能性が強
まりました（墳丘は削られて消滅しています）。

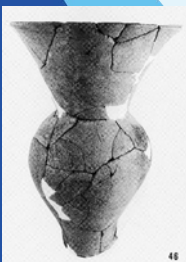
埴輪は、壺形埴輪が少なくとも5個体、円
筒埴輪2片があります。類似する壺形埴輪が南
区の老司古墳（約1,600年前頃）で出土し
ていることから、この古墳も同じ頃の前方後
円墳であった可能性があります。

今回の発見により、姪浜遺跡に埴輪
で飾られた有力者の古墳が存在した

ことがはじめて明らかにな
り、地域の歴史を考える
上で貴重な成果となりま
した。



壺型埴輪



左：姪浜遺跡 右：老司古墳

→ 8・9月のイベント情報

8月

6日 県指定無形文化財 玄清法流盲僧琵琶

場所：南区高宮1 成就院

13～15日 市指定無形民俗文化財 田隈の盆押し・盆綱引き

場所：早良区野芥2 地録天神社

15日 市指定無形民俗文化財 草場の盆綱引き

場所：西区大字草場 草場町内集荷場広場

16日 市指定無形民俗文化財 西浦のかずら引き

場所：西区大字西浦 西浦漁港

16・17日 市指定無形民俗文化財 志賀島の盆踊り

場所：東区大字志賀島 渡船場の横の広場

17日 市指定無形民俗文化財 宇田川原豊年獅子舞

場所：西区周船寺 丸隈山古墳

24～26日 県指定有形民俗文化財 大浜流灌頂

場所：博多区大博町 流灌頂通り及びふれあい通りの一部

9月

15日 板付弥生のムラ「土器づくり体験教室」

※応募要項は市政だより8月15日号・ホームページをご覧ください。

29日 埋蔵文化財センター 考古学講座 第4回

「福岡市の肉食文化」 講師：屋山 洋氏

福岡市

経済観光文化局文化財活用部

住所：福岡市中央区天神 1-8-1

TEL: 092-711-4666 FAX: 092-733-5537

文化財の保存・管理・活用に関すること

文化財活用課 TEL: 092-711-4666

史跡の整備・活用に関すること

史跡整備活用課 TEL: 092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL: 092-711-4667

埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること

埋蔵文化財センター TEL: 092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中！



ふくおか
文化財だより



Vol.16 2018年8月

～アプリを使って見に行こう～

歴史×癒しの空間—香椎

文化財まち歩きアプリ「福岡歴史なび」は、市内の歴史
や文化財をめぐる11のコースを設定しています。今回紹介
する「紀紀と対外交流—香椎」ルートでは、香椎宮をス
タートし、深い緑に包まれた参道を経て、博多湾にいたる
まち歩きが楽しめます。

おすすめスポット①【香椎宮】

香椎宮は、神功皇后がこの地
で亡くなった仲哀天皇を祀ったこ
とが起源とされ、社殿の建立は
神亀元（724）年と伝えられて
います。深緑に囲まれた境内に
は、「香椎造」と呼ばれる独特な造りをした本殿や、堂々
とした楼門、御神木の綾杉など、見どころが多くあります。



御神木「綾杉」

おすすめスポット②【報恩寺】

中国・宋から帰国した僧・栄西が、
博多の聖福寺に先立ち、建久3
（1192）年に創建した報恩寺。
境内では、日本に最初に伝来した
といわれる菩提樹や、優しい表情を
したお地蔵さまが迎えてくれます。



報恩寺境内のお地蔵さま

夏休みはぜひ

癒しの空間・香椎へGo！



まずはアプリをダウンロード！

→文化財調査のレジェンド・青柳種信

～本居宣長とも交流をもった福岡藩士の国学者～

福岡の歴史や地理を調べようとする時、必ずチェックしなければならない基本文献の一つに『筑前国続風土記拾遺』があります。この文献は江戸時代後期に、福岡藩士の国学者 青柳種信が編さんしたものです。

種信は明和3(1766)年に福岡藩士 青柳勝種の次男として生まれました。若い頃から国学や漢学を学び、文化11(1814)年には藩から命令を受けて『筑前国続風土記拾遺』の編さんを開始。文政3(1820)年から9年間をかけて弟子たちと筑前国内をまわり、寺社や旧家などに伝わる古文書や美術工芸品を調査して記録を作成しました。調査された資料には、現代ではすでに失われてしまい、見ることができない文化財も多く含まれています。天保6年(1835)12月の種信の死後、弟子たちの手によって『筑前国続風土記拾遺』は完成しました。

現在、私たちが行っている文化財保護の業務は、先人たちの仕事の積み重ねのうえに成り立っています。福岡の文化財保護の歴史を考えるうえで、青柳種信の名前を忘れることはできません。



種信の肖像画（福岡市博物館蔵）

→第1展示室プチリニューアル &庚寅銘大刀 公開

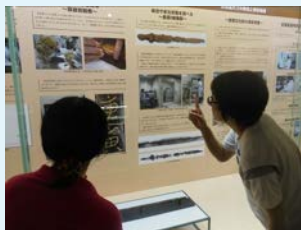
～干支の暦日、庚寅の日には実物も登場！！～

歴史の風6月号で複製品が完成したことをお知らせした「庚寅銘大刀」。

平成23年の発見から7年の月日をかけ、「実物」の保存処理、当初の姿を再現した「復元品」や実物さながらの「複製品（レプリカ）」の製作などを行い、ようやくみなさんにお披露目できる環境が整いました。

そこで、福岡市埋蔵文化財センターでは、第1展示室をプチリニューアルし、「庚寅銘大刀」専用コーナーを作りました。ここでは庚寅銘大刀の保存処理の過程を紹介するほか、レプリカの常設展示を行います。

「実物じゃないんだ…」と肩を落としたあなた、ご安心ください。このコーナーでは庚寅銘大刀にちなんで干支の暦日「庚寅の日」には「実物」「復元品」「複製品」の3本の大刀がそろいます！今年度のチャンスは3回！どうぞお見逃しなく！



第1展示室リニューアル



今年度の「庚寅の日」は
8月26日（日）
10月25日（木）
2月22日（金） だよ

福岡市埋蔵文化財センターの催しなどの情報はホームページをご覧ください。

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>



→いろいろな角度から調べます

～復元整備に着手した潮見櫓～

潮見櫓は福岡城三の丸の北西隅に位置した2階建ての櫓です。築城当初、城の西側は海の入江で、櫓が海に面していたことが名前の由来といわれています。櫓は、明治42(1909)年に黒田家の菩提寺である崇福寺に移築され、仏殿として用いられました。福岡大空襲の被災も免れ、ありし日の福岡城の姿を伝える建物として親しまれてきました。

平成2年、福岡市は潮見櫓を再び城内に復元するため、崇福寺から仏殿を買い上げ、建物を解体して移築する準備をはじめました。解体時の調査では、潮見櫓を移築したことを記す棟札も見つかっています。



解体された潮見櫓の部材



四角い印は江戸時代の角釘の痕跡

平成27年度には解体した部材が、本来どのように組み合っていたのかなどを検討する調査を実施しました。

今年度は潮見櫓が建っていた櫓台の石垣を確認するための発掘調査を実施する予定です。これらの成果をもとに、江戸時代末ごろの潮見櫓の姿を復元するための検討を進めています。

今後、復元整備の進捗状況を報告していきますので、ぜひご期待ください。